

キャラクター名 アイリス・リスタ・カリドゥス	プレイヤー名
---------------------------	--------

種族	バジリスク	種族特徴	邪視と瞳石、猛毒の血液、魔物化、弱点(水氷+3)		
生まれ	占い師	性別	女	年齢	22
冒険者Lv	15	経歴	命を奪うのが好き		
経験点	38400		一人だと不安を感じる 人間にくだらない賭け事で負けてしまった		

技	8	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス	技能	Lv.	技能	Lv.
		器用度	7	30		45 + 18	10	プリースト/アンヴァルナ	2	デーモンルーラー	15
体	12	敏捷度	11	25		44 + 20	10	スカウト	11	ミスティック	15
		筋力	5	12		29 + 18	7	レンジャー	9	フィジカルマスター	10
心	13	生命力	7	12		31 + 18	8	セージ	2		
		知力	5	39		57 + 20	12	エンハンサー	6		
		精神力	6	36		55 + 24	13	アルケミスト	5		

戦闘特技			
ルーンマスター	IB34 p	二刀流	1-281p
トレジャーハント	2120p	占瞳操作	IB30 p
ファストアクション	2123p	マルチアクション	1-292p
影走り	2120p	命中強化	2-230p
治癒適性	2122p	双撃	1-280p
不屈	2123p		p
ポーションマスター	2123p		p
魔力撃	1-292p		p
代償軽減	IB30 p		p
両手利き	1-283p		p
自己占瞳	IB29 p		p

言語	会話	読文
巨人語	○	
交易共通語	○	○
ドレイク語	○	○
汎用蛮族語	○	○
魔神語	○	
魔動機文明語		○
魔法文明語		○
妖魔語	○	
ミアキス語	○	
ソレイユ語	○	
バジリスク語	○	○

練技/呪歌/騎芸/賦術		
キャッツアイ	星は剣を導く	
オウルヴィジョン	凶星の光を避ける道を知る	
マッスルベアー	襲い掛かる敵の幻	
ビートルスキン	背後から迫る闇の幻	
シェイプアニマル	怒れる言葉の幻	
スフィンクスノレッジ	光る星は神秘を誘う	
クリティカルレイ	灰色なる敗北の幻影	
Vポン	黒き死の幻影	
パラミス	光る星は弱点を導く	
ヒルスブ	無色なる不備の幻影	
イニブ	賢星に語るべかりし言葉を問う	
幸運は星を導く	幸運は勝ち戦を授ける	
富を導く	新月に砕ける刀の幻夢	
星は盾を掲げる		

技能	基本 レベル	基本 命中力	基本 回避力	基本追加 ダメージ
ファイター	0			
グラップラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾		必要 ランク				筋力				回避力				防護点			
鎧	マナコート																
盾	デモンズクロウ																3
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)																	
回避技能	デーモンルーラー					合計値	25				9						

武器	用法	必要 筋力	命中 修正	命中力	C値	追加 ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
デモンズ・フォルトナ・タロット 小魔の封入具	1H	9	2	2d+ 29	9	24	15										
デモンズブレード	1H	1		2d+ 27	10	22	50										
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													

制限移動	通常移動	全力移動
3 m	64 m	192 m

回避	防護点
2d+ 25	9

HP
94

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
神聖魔法	2	15			
召異魔法	15	31			

魔物知識/弱点	先制力
2d+ 14	2d+ 21

生命抵抗	精神抵抗
2d+ 23	2d+ 28

MP
130

装備品	説明
頭	ラル=ヴェイネの羽冠
耳	ラル=ヴェイネの金鎖
顔	ラル=ヴェイネのタンピラス
首	ラル=ヴェイネのラリエット
背中	多機能セービングマント
右手	イアンナのプレスレット
腰	多機能ラル=ヴェイネのガーターベルト
足	ラル=ヴェイネのガクソルッカー
その他	敏捷腕輪

装備品	説明
数々の相互フォローの耳飾り	貰った
風切り布	
左手 知力腕輪	
アルケミーキット	
ラル=ヴェイネのマナリング	デクスタリティ

その他メモ	自動失敗 チェック
占い師lv5 踊り子lv5(—ノーブル11lv)	□□□□⑤
「道化師は秩序の濫用の請負人を辞め、退廃と踊り、断頭台と揺り籠に含まれる命題に差異はなく、現在とは膨大な過去と未来の聞き合いの中に生まれる破壊的な閃光に過ぎない……何？回りくどいって？ふむ、とどのつまりまあ……私は、私の目にも見えないものが欲しかった、それだけの話だよ。———今は、それが見つかりそうなんだ」	□□□□⑩
———世界が色を失ったのはいつ頃だっただろうか。貴族に生まれ、蛮族にしては珍しく、友に恵まれ生きていた。だが、幼い頃から瞳に映るのは、他人の死、失敗、そして僅かばかりの幸せな未来。幼き心は摩耗して、気がつけば未来と過去以外が目の前から消えてなくなった。最悪の未来と、失った過去ばかり眺めた少女は彼女は今を生きる人々の貌がわからない。	□□□□⑮
	□□□□⑳
	□□□□㉕
	□□□□㉙
	□□□□㉚

